



月報

3

# 缶詰問屋協会

(48.3.15 No.75 VOL.7)

## ◆目次◆

2月の行事一覧表	1
◇蜜柑缶工組との打合せ	2
◇果実部会	4
◇蜜柑缶工組との懇談会	11
◇蜜柑缶工組との緊急下打合せ	18
◇蔬菜部会	21
◇昭和48年筭全国大会開催要領	26
◇たけのこ大型缶詰の日本農林規格改正(案)について	27
◇マツシュルームの生産状況について	31
缶詰共同宣伝	31
'73缶詰フェア東京第1回打合せ	32
関係団体報知	33
会員消息	35
事務局報知	缶詰協事務局移転についてのお知らせ 35

## 全国缶詰問屋協会

Japan Canned Food Wholesalers Association

東京都中央区日本橋3丁目4番15号  
八重洲通ビル7階

電話 東京(273)9278・9289番

## 2 月 の 行 事 一 覧 表

行 事	月 日	時 間	場 所	出 席
蜜柑缶工組との 打合会	2月 7日	11.00~12.00	蜜柑缶工組	全缶協側 5名
'73缶詰フェア 東京第1回打合会	2月12日	15.00~17.00	日 缶 協	中山副会長他
果 実 部 会	2月15日	10.30~12.00	北洋商事(株)	22名
蔬 菜 部 会	2月15日	13.00~15.00	”	16名
缶JAS懇談会	2月15日	15.30~17.30	日 缶 協	大橋部会長他 3名
蜜柑缶工組との 懇談会	2月15日	16.00~17.00	丸の内ホテル	全缶協側 5名
蜜柑缶工組との 緊急下打合会	2月26日	11.00~12.30	北洋商事(株)	全缶協側 6名

## 3 月 の 行 事 予 定

蜜柑缶工組との 懇談会	3月 1日	16.00~	ルビーホール	
第2回・缶詰フェア 東京実行委員会	3月 2日	15.00~	日 缶 協	
果 実 部 会	3月 5日	13.30~15.30	北洋商事(株)	
業務用缶詰開発 研究会	3月 7日	14.00~	新宿ステー ジョンビル	
昭和48年缶 全国大会	3月 9日	12.30~	香川県琴平町 虎屋	

## 蜜柑缶工組との打合せ

日 時 昭和48年2月7日 11.00~12.00時

場 所 蜜柑缶工組 応 接 室

出 席 (工組側)

副 理 事 長 竹 内 雅 明 氏

委 員 長 廿 日 出 多 真 夫 氏

専 務 理 事 村 上 延 衛 氏

主 事 井 原 信 治 氏

〃 花 島 満 氏

(全缶協側)

副 会 長 中 山 良 助 氏

副 部 会 長 森 木 国 雄 氏

明 治 屋 高 崎 康 二 氏

北 洋 商 事 加 藤 稔 氏

専 務 理 事 北 田 久 雄 氏

### ※ 緊急会合の概要

日本蜜柑缶詰工業組合では2月5日、輸出、内販対策合同小委員会を開催しこのたびの農林省みかん緊急対策について協議したが、ようやくその具体案がまとまったのでその内容を伝えたいとの申し入れがあり、7日午前11時上記5名が同工組を訪れた。

この日は専ら工組側の説明をきくことにとどめ意見や希望を申し述べるような場面は避けた。

なお、同工組では理事会、総会を2月16日に開催するということであるので

その時点にさきがけて、15日果実部会を開催することとなった。

☆ ☆ ☆

(工組側の説明)

廿日出氏：慎重に検討した結果100万函を輸出へ調整保管することにした。

そしてこれを12月1日まで保管するが、これで多少なりとも内販の市場圧迫を回避できると思う。

内販については種々論議したが、輸出と同じようにまず問屋の注文承諾書などを得て保管隔離し、そのものに金融保証する。

竹内氏：これからの見通しについてはその実態がつかめないが、2月一杯は変動がなかろうと見る意見と中旬になって変化しようとの二つの見方がある。私の感じるころでは原料が330万トンとっているが、それを越えるように思う。いずれにしても2月に入ってピッチが落ちるかどうかがキーポイントである。

現在日産125,000%といったところで輸出向けにウエイトがかかっている。このたびの輸出向100万%の根拠は日産数を見て2月の実働24日、3月の実働13日でどうなるかを地区別に検討して見たところによるもので100万函が大体オーバーするだろうと見通しをたてた。100万函の調整をどのようにすればよいかの検討に入ったとき2月末日でやめればよいではないかという声もあったが、それも行かない。

輸出向けの100万%はこし440万函の割当のうち実績が400万%であるからその25%に該当し、従って各社の頭割は実績の25%となる。輸出向け割当の少ないところでは輸出が終れば勢い内地に走るということにもなるので、平等割を15%見て、それを最高限度として輸出品の適格品をつくれと指導したい。

一方内販については、内販希望のメーカーはブランドオーナーの諒解を得たものに融資することとなる。保管期間は12月1日まで。そして12月1日になれば内販にあっては借入金と融資金を清算しバックカーに引取ってもらうこととなる訳である。

輸出における融資金額であるが、現在の販売価格と、円切りあげの予想、海外市況などを勘案してバックカー負担の金倉150円を含め、1,500円の融資を現金で考えましょうということである。(現在農中金は1,400円が限度)内地向けについては価格を出すことはまず困難なので輸出価格を勘案して考えましょうということになる。

輸出100万%に対し内地がどの位できるか不明であるが、ここらあたりで一応吸いあげが出来るのではないかと思う。手ぬるい方法かも知れないが、バックカーに協力するよう説得し、16日の理事会、総会で決定したい。

農林省へは2月一杯に計画書を出すことになっている。

なお輸出の場合ストレートに5/4で出すと来年度に支障を来たすことになるので特殊缶についていま共販側で検討中である。

輸出のものを内地レベルを貼って出すことは絶対しない。

九州地区は明8日(清水地区は9日)に説明会を開くことになっているが、どうか問屋側も効果のあるようなご協力をお願いしたい。

## 果 実 部 会

日 時	昭和48年2月15日	10.30～12.00時
場 所	北洋商事(株)	7階会議室
議 題	(1) みかん緊急対策に伴う内販みかん缶詰に関する件 (2) そ の 他	

## ※ 部 会 討 議 の 概 要

本部会は農林省のみかん緊急対策に伴う内販みかん缶詰に関する件を中心に検討が行なわれたもので、まず、野田部会長から次のような挨拶があった。「みかん缶詰の製造期も3月15日まであと1カ月を残すのみとなり、いわゆる終盤に入った。これからの生産数量が内販市場を決定づける重要時期にきている。ことしはJAS全面受検ということになりそのデータを工組でまとめJAS受検数量を逐一適格に把握している。

現在までの実勢とこれから1カ月間の生産予測、さらには今後どのようにすべきか、輸出向け生産の推移とにらみ合せながら内販がどう決着するか、また円再切上げ問題が突発的に出て昨日から株式市場も動揺している。輸出不振予測がしいては内販の思惑となり、大きな変化が現われるであろう。年明け後の仮仕切価格取決め折衝段階で大きな変化を来したと考える。

さてご存じの通り農林省からみかん10万トンの原料対策について要請があり、これに対する工組側の考え方はどのようになっているか、輸出、内販の問題が積み重なって工組では重要会議を開いてきており、今日も午後4時から丸の内ホテルで全缶協メンバーと話し合いを持ってほしいとの要請がある。2月7日に急遽工組の要請で中山副会長以下数名が出席し工組側の見解を聞いてきているのでまず中山副会長からその内容について説明してもらい、そのあとみなさんからご意見をお聞かせ願いたい。」

### 1. 生産数量について

〔2月10日現在のJAS受検数量は実函〕

	JAS	ブローケン
11月	568,000	0
12月	2,028,000	232,000

1月	1,121,000	219,000
2/10	516,000	105,000
計	4,283,000	556,000
合計	4,789,000	

なお輸出は2月12日現在換算函数で3,622,000函。輸出向けは440万函であるからあと80万函の製造を残している。この80万函輸出残を見込んであとの位生産されるであろうか、非常に予測は難かしく見解も2つに分れているが、こころみに計算してみると次の如くである。

2月11日～20日 130万函（50万輸出，80万内販）

2月20日～ 末日 100万函（30万輸出，70万内販）

3月 1日～15日 130万函（全量内販）

従って2月11日～3月15日までに内販として280万函という数字になり、2月10日現在の数字と合わせると760万函という推算が出来る。このうち輸出に100万函を吸い上げると内販660万函となり、この辺がまず穏当な見方との意見があった。

ところでこの外に、アウトサイダーのJASなしと未受検、およびブローンを含めると100万函は見込まれる。このあと各氏から次のような意見交換があった。

☆ ☆ ☆

※ 760万函にアウトサイダーの分がプラスされ、このうち輸出向けに100万函凍結という見方をしても計算すれば確かにこのような700万函をこえる数字となる。しかしこれ以上に太巾に増産されるということはないと思うが、ここで100万函の数字が減ったとして相場を維持することはかなり難かしい。

※ 2月下旬頃で大手ブランドの製造は終りあと3月以降はバックブランド

が大きい数字を占めるものと考えられる。2月12日現在のJAS受検数および輸出受託数をもとにして計算してみると今後の生産は次の如くになると考えられる。

適正生産数量 = 1,000万函 (輸出440万, 内販560万)

2月10日現在JAS受検数ブロークンを含め480万函

期 間	2/10~2/20	2/20~2/28	3/1~3/15日
操業日数	(8日)	(7日)	(13日)
生産数	130万	100万	130万
内輸出	50万	0	0
内販	80万	100万	130万
			合計 310万函

480万 + 310万 = 790万函, これにアウトサイダー, 受検待ち, 100万函を加え, 合計890万函となる。このうち調整保管として輸出100万函を差引けばやはり790万函程度になるのではないか？

※ 若干原料の値が引き締まるという状況変化があるが少なくとも3月15日までの操業には十分あると見る。毎年いま時分になると原料がなくなったというがことはいっこうにその気配がない。多少値が上ったといっても15円に対する1~2円止りである。

※ 青果向けには年内出荷160万トンの実績でありそれから考え合わせると200万トン近いものが越年したことになり, やはり3月15日までの操業には原料はことかかないだろう。

※ 円切上げの影響について次のような見解があった。

当初は1,900円をメドとしていたが円切上げによって1,800円位のところを予想しなければいけないのではないか, 1,900円の時に280円位見



込んでいたが、これより100円位悪くなると見られる。

※ PRについて

これだけ増産予想がされれば2次店、スーパー等の販売意欲がなくなってくる。工組対策として価格を維持するというだけでなく、むしろことは前向きの姿勢で不安感を取り除くためにPRが必要で、この点も強く工組側に申入れてもらいたいとの意見が述べられた。

以上のような検討が行なわれ、この線にそって午後4時から蜜柑缶工組のと懇談会にのぞむことになった。

内販向け みかん缶詰 JAS 受検状況

昭和48年2月20日現在

単位：函数

検査所別	1/06	2/24	3/24	4/24	5/48	5/24	ツナ/24	計	換算計	前年同期 (47219)	ブローン 鑑定数量 (換算)
清水	167980	288202	10185	615377	454098	531		1486318	1444887	284210	174512
神戸	51502	186923	1112	757288	588844	45884	12800	1598803	1441678	595865	144774
門司 (含長崎)	92521	138758		787259	810571	26171		1805275	1666211	548444	301345
仙台	3775	3614		19281	8063			34733	31772	5174	4523
東京								-	-	-	-
計	315728	567492	11297	2129205	1811571	72586	12800	4920129			
換算計									4584548	1438198	625154 (前年同期 845675)
前回調 (48214)	270636	493145	10218	1952988	1705907	66875	10343	4510112	4189505		579941

(輸出) 昭和48年2月20日(火) 現在地区別出荷状況表

単位: 函数

	1/06	2/24	4/24	5/48	5/24	F7 2/4	U 2/4	換算計	46年度 2/19(土)	45年度 2/22(月)	44年度 2/21(土)
横浜				8810	2230			(—) 4925	(—) 18490	(—) 132263	(—) 46336
清水	138585	149893	263522	542953	1387161			全(14249) 1805290	全(19518) 1571484	全(2447) (17026) 2607440	全(3344) (31305) 2350861
神戸	52021	60841	4600	300600	809301		5000	全(9800) (7154)	全(5873) (5350)	全(11339) (14505)	全(6235) (37272)
関門	11938	27459	3000	375490	903520		全(2750)	全(3166)	(—)	全(1522) (17153)	全(4000) (10521)
長崎	9475	16432		402595				(915) 436786	(3697) 332707	(6680) 454656	(6396) 300287
合計	212019	254625	271122	1624748	3102212		5000	全(25484) 3987937	全(23565) 3389025	全(55364) 5198411	全(85494) 4024583

註: カッコ内は当日分の出荷数, 全は全販連宛出荷数

## 日本蜜柑缶工組との懇談会

日 時 昭和48年2月15日 16.00～17.00時  
場 所 丸の内ホテル 8階会議室  
内 容 みかん缶詰に関する件

出 席 〔全 缶 協 側〕

果実部会長	野 田 喜三郎 氏
副 会 長	
副 会 長	中 山 良 助 氏
住商フーズ(株)	竹 内 光 郎 氏
北洋商事(株)	飯 塚 嵩 氏
専務理事	北 田 久 雄 氏

〔蜜柑缶工組側〕

理 事 長	後 藤 磯 吉 氏
副 理 事 長	竹 内 雅 明 氏
〃	辰 巳 秀 一 氏
内販委員長	廿 日 出 多 真 夫 氏
専務理事	村 上 延 衛 氏
主 事	井 原 伸 治 氏
〃	花 島 満 氏
山梨缶詰(株)	山 梨 恵 一 郎 氏
富士缶詰(株)	樋 口 辰 春 氏
日興食品(株)	上 野 幸 雄 氏
(株)深堀食品工場	深 堀 清 二 氏

日本冷蔵(株) 山本良一氏

☆ ☆ ☆

全缶協では2月15日10:30～12:30時まで北洋商事(株)会議室において果実部会を開催し、みかん緊急対策に関する件を中心に協議したが、この日同じく日本蜜柑缶詰工業組合においても輸出・内販対策合同委員会を開催中であつたのでこの委員会の終了時点に合わせて午後4時から果実部会長をはじめとする代表者が丸の内ホテルに出向き工組側の説明を聞くとともに全缶協側の意向など申し述べた。

その内容のあらましは次の如くである。

☆ ☆ ☆

後藤氏 ここにきて若干原料の様子も変わってきており静岡でもとり勾配になりかけて来た。このたびのみかん缶詰調整保管事業の実施についてはさきの小委員会の考え方と大きく変わったというところはないが、ただ前回の案では1,000万函を越えた場合にその越えた部分を調整保管するとしていたのを明16日の理事会および総会が終った時点でたとえ1,000万函に達しなくとも希望者の届出によって調整保管に入ることになった。

次に調整保管の融資金額については輸出向けにあっては1,500円を希望していたが、農林中央金庫は1,300円プラス150円の1,450円を対象とすると言っており、従って実際にパッカーに入るのは1,300円ということになる。また内地向けの保管分については砂糖、印刷缶、運送費などがパッカー負担となり、これらで300円は必要であるが、少くとも函当たり200円は融資して欲しいと考えており、最悪の場合でも

1300円に200円がうわ乗せとなるようにしたい。

村上氏 明16日の理事会、総会で語る案の内容を説明すると次の如くである。

### みかん缶詰調整保管事業実施要領(案)

みかん缶詰の調整保管事業は次の要領によって行なう。

#### 1 調整保管の対象品

昭和47年産うんしゆうみかんを原料とし、昭和48年3月15日までに製造したみかん缶詰

#### 2 調整保管の対象数量

##### (1) 輸出向け品

各自の昭和47年度実績割の15%に相当する数量に3,000函を加えた数量(5号缶48缶入のもの)を限度とする。

##### (2) 内販向け品

ブランドオーナーの承諾を得た缶型数量とする。

#### 3 調整保管の始期及び終期

昭和48年2月 日以降同年12月 日までとする。

#### 4 調整保管を行なう場所

組合の指定する倉庫

#### 5 調整保管の受託者

組合または共販会社

#### 6 調整保管品に対する融資

(1) 輸出向け品 5号缶48缶入 1函当り 1,500円

(2) 内販向け品 輸出価格を勘案して決定する。

#### 7 融資の条件

調整保管契約に基づいて融資を行なうものとし、

(1) 輸出向け品については

- (イ) 日本缶詰検査協会（以下「検査機関」という。）の行なう輸出検査に合格したことを証する検査格付書（写）
- (ロ) 指定倉庫の発行する倉荷証券
- (ハ) 委託者を代表する者の個人保証書を添付するものとする。

(2) 内販向け品については

- (イ) 検査機関の発行するJ A S 格付検査報告書
- (ロ) 指定倉庫の発行する倉荷証券
- (ハ) 委託者を代表する者の個人保証書
- (ニ) ブランドオーナーの引受承諾書を添付するものとする。

8 調整保管の解除

(1) 輸出向け品

昭和48年12月1日に調整保管を解除し、48年度輸出向けみかん缶詰として共販会社が受託する。

(2) 内販向け品

昭和48年12月1日に融資金および受託者の立替金を支払い委託者が引取る。

9 金利、保管料

調整保管中の金利、保管料は、調整保管を委託した者の負担とし、政府の助成金（1函当たり150円）を差引いたものを輸出向け品、内販向け品のグループ別に共同計算を行なう。金利、保管料については組合または共販会社が立替払いを行ない精算する。

10 調整保管希望の申込

1項から9項までの条件で調整保管を希望する者は、輸出向け内販向け別に希望数量を2月24日までに組合に申し出ること。数量の変更を

要する場合は理由を付し3月5日までに組合に申し出るものとする。

## 11 その他

輸出向け品の調整保管分については次の通り確認する。

- (1) 調整保管分は、48年度の特別自由枠とすること。
- (2) 調整保管分は、48年度の実績算定の基準にしない。
- (3) 48年度の輸出総枠決定の際は、調整保管の数を勘案して決定する。

以上の如くであり、内地向けの場合はブランドオーナーの承諾書をつけて申込んで貰うことになる。そしてこれは先ほど理事長が言われた如く、明日の総会で承認された以降から実施する。なお調整保管のものは完全に荷を動かすことの出来ないよう指定倉庫に保管する。

野田氏 2月中旬に入ると転換期が来るだろうという見方であったが、ことしの原料は3月15日までことかかない数であるのかどうかその辺のところをお聞かせ願いたい。

廿日出氏 いきなり3~4割もあがるということはなからうが、しかしおそらく20円以下の原料というのはなくなるであろう。

樋口氏 静岡も総体的にはソコをついた感じである。神奈川県では原料が2円上げとなったと聞いている。

野田氏 原料価格は別としてやる気さえあれば原料はあるのではないかと。

上野氏 九州では3月に入ればかなり上るだろうという意見が出ており、加工原料は一応整理されたと見る。中には2月11日を中心に2~3日休んだところもあり、生産も落ちて来た。

後藤氏 そろそろ工場によっては止めて行くところも出て来よう。

野田氏 それなら結構だが、実際に当たって見ると空缶の発注が相当伸び



てきているようだ。さきほどの全缶協の果実部会で検討して見たところでは、2月10日現在サイズもののJASならびにブロークン混みで480万函となり、それにアウトサイダーのJASを受けないものおよびJAS待ちのものを含め100万函は見なければならないので実際には2月10日現在で580万函となる。この時点ですでに調整保管対象といわれる1,000万函に達したのではないかと思われる。それが8月15日までとなると算術計算ではあとさらに300万函できることになり、そのうち100万函が輸出向けに調整保管されるとしても、これは大変なことになりかねない。

ベースはこれから落ちるとのことだが、計算のうえではどうしてもそういう数字になり、非常に心配しているところである。またここに来て安値ものも一部から出ており状況の変化が見受けられる。私は変化が出てくるのは当然と思っている位であるが、そのほかにも相当下回ったものが出ているようである。いずれにしても量的にも價格的にも深刻な事態となった。さらにもう一点申し添えたいことは将来のため普及宣伝に相当の粋を投入すべきであることも真剣に考える必要がある。

後藤氏 決して楽観すべき情勢でないことは事実である。JASなしについて九州の某パッカー(10万函程度)があったが、それ以外は気がつかないし、聞いていない。

野田氏 九州以外ではないと見てよいか。

後藤氏 まずJASなしはないと思う。従って私の見るところではJASなしのものと、JASの受検待ちのものを合わせ、せいぜい40万函位と推定している。

野田氏 そちらが問屋とメーカーとの感触が違うところである。

いずれにしても昨年の話合いの出た当時と現在とは事情が違って来た。

中山氏 2月20日までで止めれば一番よいのであって、それが出来ることが望ましい。

竹内(光)氏 工組側の見方と全缶協側の見方とは200万%の相違が出ている。計算では上限が1,330万函となり、ブロークンを除いても200万函の違いがある。

野田氏 われわれはブロークンも入れての計算である。

村上氏 しかし実函と換算とでは30万函位のひらきが出てくる。

深堀氏 われわれの計算では2月25日あたりで1,000%と読んでおり、問屋側の見方と5日間の相違がある。

山梨氏 私は原料も悪くなっているので生産は明らかに落ちると思う。

後藤氏 とにかく生産セーブを明日の総会で呼びかけるつもりだ。

中山氏 ビッチが落ちるとしても過剰に出来ており、それを支えるものがない。

野田氏 調整保管の利用となると日付けの面でヒネ品となり、売りにくくなる。

中山氏 調整保管は興味のない事柄である。

野田氏 来年が悪いというのであればメリットもあろうが…………。

竹内氏 融資金額の1,500円が1,300円に変わり200円ダウンしたが、来年の販売価格も考えなくてはならずとにかく無理なことは出来ない。この1,300円でどの位のもが出てくるか不明だが、私の感じでは大きな変化はないのではないかと思う。おそらく製造にブレーキがかかると思う。

中山氏 円高さで輸出向けが渋くなり、内地にその分がかぶさってくるようなことはないか。

- 竹内(光)氏 その心配はたしかにある。
- 竹内氏 いまの日産12～13万函ベースがそのまま続くとは考えられないし、仮りにそのピッチで行ったとしても130万函といったところであろう。これはブロークンと換算をハズしての数であるが……………。
- 野田氏 JASなしおよびピッチの見方等は両者の違いがあるがその他では大体数字的にも合っているようだ。ところで円切り上げについては当初280円という見方であったが、このたびの変動相場制で100円位の違いが出たのではないか。
- 竹内氏 そんな大きな違いはないが、相当の覚悟は必要である。
- 後藤氏 つくりすぎはセーブすることにした。
- 中山氏 成ろうことならこれだけできるを約束して欲しい。
- 野田氏 調整保管分はメーカー側との個々相談ということになる。

〔懇談会を終ったの印象〕

目下価格折衝段階に至り一部売り値の乱れもあるやに聞くが、なおしばらくは(少くとも月末まで)慎重に推移を見守りたい。

- ※ 理由 ; ① 調整保管数量は2月24日～25日につかめる。  
② その後の全製造数量も次第にはっきりして参る。  
③ 2月24日～25日直後に全缶協としても情報申しあげる機会を持ちたい。

## 日本蜜柑缶詰工業組合との緊急下打合会

日 時 昭和48年2月26日 11.00～12.30時

場 所 北 洋 商 事 (株) 7 階 会 議 室

内 容 新物みかん缶詰について

( 出 席 ) 全 缶 協 側 代 表 者

果 実 部 会 長 野 田 喜 三 郎 氏

副 会 長 中 山 良 助 氏

果 実 部 会 副 部 会 長 森 木 国 雄 氏

北 洋 商 事 (株) 和 気 正 夫 氏

” 飯 塚 嵩 氏

専 務 理 事 北 田 久 雄 氏

蜜 柑 缶 工 組 側 代 表 者

理 事 長 後 藤 磯 吉 氏

副 理 事 長 竹 内 雅 明 氏

” 辰 巳 秀 一 氏

専 務 理 事 村 上 延 衛 氏

### ※ 緊 急 打 合 会 の 概 要

2月26日午前11時から全缶協側の希望により日本蜜柑缶詰工業組合側との代表者間で緊急下打合会を行った。

この下打合会は、さきに果実部会員各位に対し「調整保管の申込状況ならびにJAS受検状況が次第にはっきりして参る2月24日～25日の時点で改めて情報申しあげる」旨を通知したことにより、同工組側と情報交換したもので、この日の下打合会では内販みかん缶詰の生産状況と今後の市況を中心に話合ったもの。

この会合での工組側の意向は明らかにされなかったが、来る3月1日、同工組の輸出内販合同小委員会を開催したうえ、同日午後4時から東京大丸のルビ

一ホールにて全缶協果実部会員代表と改めて懇談致したいとの意向が伝えられ、全缶協側もこれを諒承、一応在京果実部会員代表が当日出席する。

なお3月1日の工組側との懇談会を終えたあと緊急ではあるが、3月5日に正式に果実部会を開催し、この重要問題に対処する。

☆ ☆ ☆

〔下打合会での問題点〕

この日の両者の意見交換では下記のように生産数量の見方に喰い違いがある点が注目された。

工組側の見方		全缶協側の見方	
2月現在	1,000万%	2月26日現在	482万函
3月1～15日 (13日間)	91万%	27日以降16日間 (輸出調整保管100万函を除く)	92万函
合 計	1,091~1,100万函	合 計	574万函
うち輸出割当	440万%	(ホールのJAS)	
” 調整保管分	100万%	外に受検待ち・JASなし	70万函
差引内販向け	560万%	計	644万函
(但し換算：ブロークンを除く)		ブロークン	65万函
日産能力 2月末 10万函前後			709万函
3月に入り 7万函		(但し換算：ブロークンを含む)	
		日産能力：12万函	

以上の通りであり日産能力の見解に相違があり、従って両者の見方に84万両前後のくい違いがある。

## 蔬 菜 部 会

日 時 昭和48年2月15日 13.00～15.00時  
場 所 北 洋 商 事 ㈱ 7 階 会 議 室  
議 題 (1) たけのこ大型缶詰のJAS改正について  
(2) 新物缶詰に関する情報交換について  
(3) 缶詰全国大会について

### ※ 部 会 討 議 の 概 要

本部会はたけのこ大型缶詰のJAS改正(案)について前々検討を行ってきたが、その最終的段階を迎え全缶協としての姿勢と缶全国大会に臨む態度につき話し合った。

#### 1. たけのこ大型缶詰のJAS改正について

まず大橋部会長から次のような見解が述べられた。

「この前の野菜部会でもいったことだが全缶協が缶詰のJAS設定を希望したのは、生産地が九州、四国、近畿で零細な方でも出来る企業だけに品位が不統一であり、これを出来る限り統一すれば日本の缶詰の発展にもつながってくるということから提案したものである。サイズ、等級が非常に多いので扱う間屋も倉庫保管、在庫管理等がまことに煩雑で缶詰の扱いはベテランでないとはよく判らない。そうしたことはその商品の発展を阻害すると考えてJAS

規格を設定してもらったわけだが、JAS受検は2割以下の低調さであり、もっとJAS受検できるような規格に改正する必要があるということから、まず受検するパッカー側で検討した案を全缶協側に示してほしいと要望していたところご承知のような(案)ができ前回部会で検討してもらったが、これは商売に密着していない規格であり、単にJASを受けさすということが目的とさえ感じられる。こういう規格では流通段階で混乱を起すので販売側としてはこの規格が決まっても従来の考え方でいかざるを得ない。

先般私と多田規格部会長連名で日缶協缶詰委員長志村氏宛に文書で簡素化案がここまでくればやむを得ないので諒承するが、5項目について再検討してほしい旨を申し入れた。

根本的には取引の実情に合うようにというわれわれの意図とはおよそ縁遠いものであるが、ここまできたら賛成せざるを得ないと思う。本日午後3時30分から日缶協の缶詰委員会と農産缶工組の代表が寄って最終的打合せを行なうことになっているのもしこの改正案では諒承しかねるということであればその時に発言したい。このJAS規格は非常に簡素化になっているがパッカーは商売していく上に困るのではないかと思う。等級は特級、上級、標準の3段階でこれは従来の1等、2等、3等がそのまま名称が変わったというだけのことである。大、中、小のサイズの表示が大L～LL、中M～S、小SS以上となったわけであるが、パッカーへの要求は、大、中、小では困るから、これは従来のような本数を表示してもらふことになると思う。先日の食品新聞に東京蔬菜缶詰同業会の座談会の記事が出ていたが、全面的に不満で賛成しかねるという意見である。これだけゆるやかにしても果して受検するか疑問であり結局パッカーの姿勢の問題である」

## 2. 新物缶詰について

大橋部会長から次のような見解が述べられた。

「私の見方も大体順調と見ているが、やはり傷、元、ヘタが残っている。また丸缶の4号缶も残っている。1号は概ね消化した。新物生産に入るのに持ち越し量はどの位か。………昨年の持ち越しは80万、50万あるいは70万本との説があったが全缶協として50万本と発表した。

ことしは15万本位と思うがどんなものか。われわれの手持ちはなくても次の段階で持っており新物出回り時期までに売りつくすだけのものがあるので市場が枯れ新物待ちという状況ではない。ことしの作柄は近畿、四国、九州8地区とも豊作または大豊作が予想される。

昨年台風の被害なく、ことしも暖冬で雨が多く天候に恵まれ、藪の土入れも十分出来ている。ことしは数量的に多く、出回る時期も早まろうといわれ、3月中旬頃にはかなり出るように聞いている。昨年の大会でわれわれの要望は400万函位消化出来るようになり、こうした順調な伸びはみなさんのいろいろな面での努力によるところが大きい。あの席上私は本年原料は不作であり、意気込んで高値買いをしないよう、前年より安くということをしあげた。やはり昨年も雨が多く暖冬であったが結果は約300円高値スタートで多少心配したが順調に消化し暮に底をついた。これは諸物価の高騰、他の野菜との関係もあったと思う。ことしはさらに人件費、運賃等が値上りしているが、かといってことしはさらに300円高くてもという考えはとも受入れられないと思う。なお生産数量は次の通りとなっている。

#### 46年葡大会で発表された数字

丸	缶	176,214%
---	---	----------

大	缶	2,785,556
---	---	-----------

計		2,961,770
---	--	-----------

その後訂正されたがその実数は

丸	缶	245,078%
---	---	----------

大	缶	2,888,815
---	---	-----------



計 3,083,893

47年菊大会で予想された数量は

丸	缶	130,300%
大	缶	2,599,300
計		2,729,600

で前年より約1割減の予想であったがこのほど日本農産缶工組がまとめた生産数量は

18ℓ	2,652,597
9ℓ	20,996
計	2,673,593

丸缶は

1/6	101,229
2/2	35,126
3/2	904
4/2	22,785
5/4	7,609
7/4	300
2K/6	621
計	168,574

合計2,842,167で前年とはほぼ変わらない数字である。

一方日缶協調べによる数字は

大	缶	2,676,170
丸	缶	264,425
計		2,940,595

であり丸缶が農産缶工組と10万函近くも違いこれはもう一度確認して見る必要がある。

以上が昨年の生産実績であるが、ことしはどの位出来るか萄大会で予測が発表されるが昨年は少なくても30万の持越しがあった。ことしは新物生産には持越しの負担はなく、順調に消化したこと、相場も上向いたこと、それに豊作等の諸条件から昨年より多い数字を考えなくてはいけないと思う。輸入萄の数量はほとんど台湾であるが中国、タイが若干ある。

46年(1~12月, 11キロ=1缶)

1,512,000

47年(1~9月)

1,210,000

あと12月までの3カ月間に相当輸入されたと思う。

大体前年並みかやや多い程度であるが、昨年のいま時分と現在の状況はかなり相違しており、ことしの場合は内地の萄が順調であったのに比べ台湾は依然として価格が上っていない。しかも売りたいという向きが相当出ている。

昨年中国との国交回復により専門外の人が思惑違いをしたことから相場が引張られた。

一方外為の関係で不安があり買い控えている。こうしたことから輸入品は昨年に比べ悪かった。しかし、輸入の新物が入るのは8月なのでその間に回復すると見ている」

### 3. 筍缶詰全国大会について

大橋部会長から次のような説明があった。

「3月9日の大会に臨み全缶協の考え方はこうだという統一見解を述べなければならぬ。例年筍缶詰の需給関係の説明を求められている。毎年同じようなことを言っているわけだがことしは特に豊作、在庫も少ないというところから慎重な生産を要望しなければならない。

ことしは中山副会長が全缶協代表として挨拶していただき、私が筍缶詰需給経

過について報告することにしたが、葡大会には蔬菜部会メンバーから出来るだけ多く出席していただきたい。」

☆ ☆ ☆

### 〔 筍 J A S 懇 談 会 〕

本部会終了後、15:30時から大橋蔬菜部会長、萩原副部長、伊藤勇氏、それに事務局の計4名が日缶協に出向き、苧缶詰委員会の志村委員長、堀口副委員長、西山委員、隅野専務理事の3名、缶検から松月氏、大内山氏の2名が集まり「たけのこ大型かん詰の日本農林規格改正（案）」について最終的懇談を行った。

パッカーとしては是非、問屋もJAS受検に協力してほしい旨の要請があったが、全缶協としては蔬菜部会の見解にもとづき、JAS受検はパッカーの責任においてやってほしいこと。問屋は従来通り表示、規格を要求することになるうとの発言を行なった。

## 昭和48年 筍全国大会開催要領

- |        |                                   |                   |
|--------|-----------------------------------|-------------------|
| 1. 日 時 | 昭和48年3月9日(金) 12時30分               |                   |
| 2. 場 所 | 香川県仲多度郡琴平町<br>虎 屋 電話 08777(5)3131 |                   |
| 3. 議 事 | (1) 一般情勢報告                        | (2) 48年産苧缶詰生産予想報告 |
|        | (3) 苧缶詰需給経過                       | (4) 輸入状況          |
|        | (5) 討 議                           | (6) 大会決議の採択       |
|        | (7) 次期開催地の選定                      | その他               |

また、大会終了後、午後6時より懇親パーティを開催。

## たけのこ大型缶詰の日本農林規格改正案について

たけのこ大型かん詰の日本農林規格案につき1月22日の蔬菜・規格合同部会で意見統一を図つたうえ、1月27日付部発第288号(全缶協月報2月号6P掲載)にて日本缶詰協会専委員長宛に検討すべき問題点として5項目にわたる要望を行なつたところ、2月6日付で日缶協志村委員長より次の内容の文書が全缶協蔬菜部会長および規格部会長宛に寄せられた。

### たけのこ大型かん詰の日本農林規格改正案について

拝啓 いよいよご清栄のことおよび申し上げます。

さて、表記に関する1月27日付貴信拝誦いたしました。

貴会のご見解につきましては、31日付農林省、(財)日本缶詰検査協会、貴会、日本農産缶詰工業組合および本会の関係者の間で協議いたし、さらに農林省の最終的な了承を得て下記のとおりJAS改正に関する方針を決定いたしました。

つきましては、たけのこ大型かん詰の今後のJAS受検の推進と取引の合理化を図るために、ぜひご賛同いただきたく、よろしくご高配下さるようお願い申し上げます。

なお、このJAS改正に関する農林物資規格調査会加工食品部会は来る2月21日に開催される予定であります。

まずは、ご報告かたがたお願いまで。

敬 具

## 記

### ○ たけのこ大型かん詰の日本農林規格改正案要旨

#### 1. 形状の区分について

現行の全形、割、先折、傷、先、切および筒のうち、傷に先折を含ませることによつて、現行の7区分を6区分に改める。

#### 2. 全形の等級について

現行の1等、2等および3等を特級、上級および標準に改める。  
「形態および肉質」に関する重点項目の規定は現行どおりとする。

#### 3. 全形のサイズ区分について

現行の1.8ℓかんの8区分、9ℓかんの10区分をそれぞれ3区分に改め、大・中・小の記号とする。

#### 4. 全形の採点基準について

第3条品質に「揃い」の項目を設けて、最大と最小のものの重量比を2.5倍以下と規定し、採点基準の「その他の事項」中の重量比に関する規定を削除する。

(注) 本会改正案の(……内容個数の5%……)は削除する。

#### 5. 割の等級について

現行の1等、2等および3等を上級および標準に改める。

#### 6. PH調整剤について

「クエン酸または酒石酸以外は含まぬこと」に改める。

#### 7. その他の事項

##### (1) サイズ区分の表示について

必要表示事項として必ず表示する。

##### (2) J A S マークの加刷について

第1種検査の場合、加刷はみとめられない。

(3) 現行の本数、サイズ記号などの表示について

任意表示事項として、一括表示欄外に示すことはさしつかえない。

◎ 追加改正事項

1. 個数の表示について

新しいサイズ区分に該当する個数を一括表示事項として規定する。

大……25個以下、中……26～60個、小……61個以上（180かんの場合）

2. 製造年月日の表示について

4.8.2.2のごとく一括表示欄に具体的に表示するほか、略号で缶ぶたに刻印して表示する。

3. 等外の廃止について

等外の等級を廃止する。

4. 傷の採点基準中の欠損部の長さについて

「形態及び肉質」の欠損部の長さについて原形の高さの1/4を1/3に改める。

たけのこ大型かん詰の日本農林規格改正案について

新	旧
第2条（定義） 全形、割、傷、先、切、筒 （先折を傷に含める）6区分	第2条（定義） 全形、割、先折、傷、先、切、筒 7区分
第3条（全形の規格） 等級：特級、上級、標準 表示：内容個数を表わす記号および本数	第3条（省形の規格） 等級：1等、2等、3等、等外 表示：内容個数を表わす記号

製造年月日：4.3.3.1のごとく具体的に示すこと

製造年月日：かんふたに略号で刻印不滅インクの場合、具体的に示すこと

品質：PH調整剤として、クエン酸または酒石酸以外は認めない

採点基準：最大最小の重量比を2.5倍未満とする

第4条（割の規格）

等級：上級、標準

第5条（傷の規格）

採点基準：欠損部の長さが原形の高さの3分の1以上のものを1点とする

別表(2)全形のサイズ区分

大 中 小

18 かん 25個以下 26～60個 61個以上

9 かん 12 " 13～30 " 31個 "

製造年月日：記載方法を指定していない

製造年月日：特に規定していない

品質：特に規定していない

採点基準：最大最小の重量比を  
2.0倍未満（5点）  
2.5倍"（4点～3点）  
2.7倍"（2点）

第4条（割の規格）

等級：1等、2等、3等、等外

第5条（傷の規格）

採点基準：欠損部の長さが原形の高さの4分の1以上のものを1点とする

別表(2)全形のサイズ区分

L L L M S S S

10～15 16～25 26～40 41～60 61～80

5～ 7 8～12 13～20 21～30 31～40

以下 略

## マツシユルームの生産状況について

昨年9月25日農産缶工組マツシユルーム部会と全缶協蔬菜部会の代表者による懇談会を開催した折に原料の生産見通しは11,800トンが見込まれるが、その1割減が妥当な生産予想となろうとされ、それにしても前年実績を大巾に上回るのではないかと推測されたが、2月1日同工組で理事会を開催し集計して見たところ昨年10月秋作～本年6月春作の収穫トン数は11,800トンの予想を大きく下回り9,000トン(76%)に止まることが明らかとなり、この模様を全缶協側に一応伝達しておきたいとの意向により2月2日同工組マツシユルーム部会長市原清明氏および専務理事山内正雄氏が全缶協事務局に來られ上記事情の説明があつた。

なお同工組では8月以降から相当の予算を計上して積極的なマツシユルーム缶詰の国内宣伝を行なうとのことであつた。

### 缶 詰 共 同 宣 伝

#### 〔業務用缶詰開発研究会〕

2月3日、2月13日の両日、日缶協で打合会を開催の結果、日本缶詰協会、全国缶詰問屋協会、日本製缶協会、日本業務用食品卸協会の4団体共催により業務用缶詰の開発普及を図るため次の要領にて第1回目の研究会を実施する。

日 時 昭和48年3月7日 14.00～17.00時

場 所 新宿ステーションビル 7階

「レインボーホール」

14.00時 集合 開缶研究会

14.30時～16.00時 懇談会



16.00時～17.00時 討 議

### ’73 缶詰フェア東京 第1回 打合会

日 時 昭和48年2月12日 15.00時～17.00時

場 所 日 缶 協 会議室

内 容 ’72 缶詰フェア東京実行委員

(会場、催物、観客動員、土産、即売)による打合せ。

◎打合会の結果次の通り決定した。

1. 実行委員長は全缶協副会長中山氏(株サンヨー堂)が昨年同様担当
2. 実行小委員会も昨年同様の5係(会場、催物、観客動員、資料土産、即売係)
3. 各係実行委員のメンバーは次のとおり。

注) ○印 リーダー

会場係 ○矢口屋、清水食品、日魯漁業、日本冷蔵、日缶協

催物係 ○日本水産、日東食品製造、東洋製缶、日本農缶工組、日製協

観客動員係 ○国分、極洋、三井物産、清水水産、東食

資料土産係 ○大洋漁業、明治製菓、国際食品開発、北洋商事、全缶協

販 売 係 ○明治屋、はごろも缶詰、森永製菓、サンヨー堂

総 務 日缶協

4. 催物、観客動員、即売、土産係は昨年よりやや人数を増す。(人数未定)
5. 出品社とま料は1こま分3万円、2こま希望の社は5万円。
6. 缶詰業外以外の各業界にも積極的に勧誘したいので、関係社を16日までに日缶協普及課に連絡。
7. 即売参加の参加費は5千円とする。  
品目は1社1点以上でもよい。
8. ’73缶詰フェアのテーマを17日までに日缶協普及課まで連絡する。

- 1) すでに提案されているものの中から良いものを選ぶ。
- 2) すでに提案されているものの手直ししたもの。
- 3) まったく新しいもの。

以上3点について

9. 缶詰の普及映画が完成したので催物係で使う。
10. 土産としては、ファッション性を打ち出した実用性のあるものを出す。
11. 第2回打合会を3月2日(金)午後3時より日缶協会議室で行なう。

☆                         ☆                         ☆

土産係の打合会は2月9日全缶協事務局に各委員が集り検討の結果、前年同様の趣向により実施する方針を決め土産係の予算(案)をたて3月2日の実行委員会に諮ることになった。

## 関 係 団 体 報 知

### 〔 役 員 人 事 〕

※ 日魯漁業(株)(千代田区有楽町1-11-1)では1月30日開催の定時株主総会ならびに取締役会において次の通り役員が選任された。

取締役会長(代表)	池 崎 勇 氏
取締役社長(代表)	平 野 越 氏
取締役副社長(北洋漁業 渉外担当)	品 田 藤次郎 氏
取締役副社長(海上事業本部長、 船舶部担当)	崎 山 守 久 氏
専務取締役(畜産本部長、 コンピューター室担当)	石 本 芝 郎 氏
専務取締役(販売生産本部長)	阿 部 寧 夫 氏
専務取締役(人事本部長、 秘書室、総務部担当)	加 藤 琢 治 氏
常務取締役(企画調整本部長)	宮 川 芳 之 氏
常務取締役(販売生産本部長、 副本部長、資材部、 技術部、研究室担当)	池 永 次 郎 氏

取 締 役	(海上事業本部副本部長) 北方海域担当)	高 井 義 助 氏
取 締 役	(東京支店長)	橋 本 吉 雄 氏
取 締 役	(海上事業本部副本部長) 南方海域担当)	和 田 光 太 氏
取 締 役	(大阪支店長)	木 本 忠 氏
取 締 役	(海上事業本部) 北方トロール部長)	柴 田 直 道 氏
取 締 役	(海上事業本部) 鯉崎事業部長)	塚 谷 正 次 氏
取 締 役	(広島支店長)	奥 山 裕 氏
取 締 役	(久里浜支社長)	太刀川 良 三 氏
取 締 役	(海上事業本部) 南方トロール部長)	吉 川 宏 氏
取 締 役	(人事本部副本部長)	柳 谷 善 夫 氏
取 締 役	(外国第1部長、外国第2部) 外国第3部担当)	井 出 貞 彦 氏
監 査 役		遠 藤 匡 輔 氏
監 査 役		住 吉 四 郎 氏
監 査 役		前 田 利 雄 氏
監 査 役		脇 村 礼 次 郎 氏

〔 第7回 セルフサービスフェアの開催 〕

(社) 日本セルフサービス協会主催により第7回セルフサービスフェアが次のように開催される。

会 期	昭和48年3月6日～9日(4日間)
会 場	東京卸売センター13階展示ホール 東京都品川区西五反田7丁目22-17
後 援	通産省・農林省・東京都・主婦連



